

第5号・1996年7月

苦節24時間、ポカラは遠くなりけり

カトマンズは5月末には雨季に突入した。ひどい日には3回も突風を伴う横殴りの夕立が来る。しかし、雨と晴れのメリハリはそれほどなく、日本の梅雨とよく似た天候の日も多い。こんな時だけに、国内出張は思い通りには行かない。

6月21日(金)、私はポカラに出張するため、カトマンズ空港で午後1時過ぎにチェックインした。2時40分のフライトだったが、昼過ぎから暗雲がたれこめ、2時30分過ぎには夕立となった。我がフライトは再三にわたって延期がアナウンスされ、5時過ぎにキャンセルが決まった。翌日(土)朝6時に再度空港でチェックイン、7時のフライトに向けて待機したが、カトマンズは晴れていても今度はポカラが雨で、待たされて待たされてようやく搭乗アナウンスがなされたのは午後2時前だった。ポカラまでのフライトはたったの30分。さんざん待たされたにではあっけなかった。念のためにと準備していた本は読み切ってしまった。

ポカラまでは乾季なら車で6時間もかからない。しかし、今は7時間30分かかる。途中水たまりにタイヤをはめたり、土砂崩れによる立ち往生があったりする。6月上旬にも、日帰りで予定していたカトマンズ近郊のヌワコット郡への出張が、雨でキャンセルになったことがあった。空も陸も全くあてにならないこの季節、出張はつらい。(浩司)

水たまりに思う、雨季でも水は貴重です。

6月22日(土)、前日のフライトがキャンセルされたため再度ポカラ行きに挑戦する浩司さんを見送るため朝6時前に空港に向かいました。彼を空港へ送り届けた後の帰途、道には前日からの雨で所々に水たまりがありました。何気なく車窓の外を見ると、テンプー(三輪タクシー)がその水たまりで車を洗っています。さらに先に進むと、窪地に溜まった雨水で洗濯している女性達が目に入りました。雨水を利用しているのです。

一般にカトマンズの水事情は悪く、私達外国人が家を選ぶ時のチェックしなければならない項目の1つに「水道水が1年を通じて充分確保できるか。」ということがあります。たとえ隣の家が充分に水があるからといって自分の家にも水が不自由なく来るとも限りません。家が立派だからといって水も豊富にあるとも限りません。実際、我が家の隣人は給水車の水を1週間に2~3回買っています。幸い我が家は、使用人が大家と水道局に交渉してくれたお陰で水道水のパイプが2本あり、時として貯水槽からあふれるほどの水が出ます。カトマンズで外国人が住むような家では、蛇口から随時水が出るわけではないため、水が供給されている間に貯水槽に水をため、それをモーターで屋上のタンクに汲み上げ利用するのが一般的です。私達のドライバーの家では水が充分にないため、彼はいつも我が家で通勤用の自転車を洗っていきます。

6月22日の光景で、私は、この国では水が決して豊富ではないことを改めて実感しました。(美澄)

これで雨季もウキウキ! 「ケイコとマナブ」カトマンズ編

国内移動がこんな状況だけに、この時期は腰をじっくり落ちつけてカトマンズでの生活を構築したいものである。そこで、私達が雨季と同時に始めたことをいくつか紹介しよう。

(1)「英会話スクール」(美澄) ALCという米国の教育機関の約2カ月のコースを受講。月~金の授業で、わざわざ米国の休日に合わせているため、ネパール暦の祭日が目白押しの秋や冬に受講すると地獄。巷は休日なのに授業は休みとならない。雨季はいい季節(この時期ネパールには祭日がない)で、しかも米国独立記念日は当然休日である。但し、宿題は多い。美澄のクラスの担当は、私の大学時代の悪友と南イリノイ大学大学院で親友だったという。なんたる偶然。

(2)「ネパール語」(浩司) 美澄が通っているネパール先生(これ苗字です)に私も個人レッスンを受け始めた。週2回、仕事の後に通っている。「あなたには先生がもう一人(美澄のこと?)いるのだから。」というので進度が滅茶苦茶速い。お陰で最近うちの使用人KCとシータが私にも気軽に話しかけてくるようにはなった。ただ、ドライバーのクリシュナは、美澄に続いて私までネパール語で指示を出し始めたので、「(ただでもあまりよくわからない)英語を忘れてしまう〜〜〜!」と相当に焦っているそうである。

(3)「エアロピクス」(美澄&浩司) 減量に良いだろうと私が美澄を無理矢理引っぱり込んだのだが、今では美澄の方がはまって週2回通っている。なんと日本人のインストラクターがいる。マラソンよりも上半身を使うので相当きつい。また、エアロピクスに通ってみて初めて、男尊女卑の甚だしいこの国でなんとレオタードが売られていることを知った。

(4)「ネパールダンス」(美澄) 事務所のウプレティ美樹さんのダンスはプロ級で、JICA関係の宴会の出し物としては欠かせない存在であるが、なんと美澄まで習うと宣言して、「プタリサダクダンシングチーム」の一員となってしまった。暮れの日本人会忘年会迎いで踊る美澄の艶姿を想像したら、頭がクラクラしてきた。「パートナーが必要なよ。」とか言われて、私まで誘われたらと思うと怖い。

(5)「アメリカンクラブ」(浩司) 敷地内のプールで、週末の2日間、コースロープを張ってラップスイミングができる時間帯を発見した。今まで専らジョギングでしか利用していなかったが、これからはシリアススイミングで利用したいと考えている。でも、米国の保養施設だけにプールサイドの眺めもなかなかである。(浩司)

私の仕事紹介 (その4) トリブバン大学ティーチングホスピタル

4月から6月にかけて、私を含めた何人かの所員が交替で休暇に入ったため、残った所員で仕事を切り盛りしなければならなかった。私も、一時帰国から戻ったとたんに医療部門担当の所員をバックアップすることになった。私自身医療部門はあまり関係していなかったため戸惑いもあったが、他の所員の仕事を一時期引き継ぐのもなかなか勉強になってよかった。特に、6月19日に足掛け16年間の協力期間を終了した医学教育プロジェクト、トリブバン大学ティーチングホスピタル(TUTH)の終了に立ち会えたことは貴重な経験だった。

TUTHは、ネパールで初めて医師養成を目的として開設された大学病院で、何も無いところから日本の無償資金協力で病棟を建設し、日本から専門家を派遣し、資機材を供与し、ネパール人カウンターパートを日本での研修に送り出したりして、医学教育の強化普及に貢献し、多くの卒業生を輩出してきた。その多くが地方に戻り、地域医療の整備に少なからぬ貢献をしている。また、不健康地ネパールに暮らす我々日本人社会にとって、TUTHの日本人ドクターは心の支えとなってきた。

そのプロジェクトの終了にあたり、私がプロジェクトの調整員と相談して行なったことを挙げると、(1)オフィスの備品や機材の処理、(2)帰任する専門家の引越貨物の通関に必要な手続き、(3)プロジェクト業務経費の精算等であった。経理部出身の私にとって、日本にいてさんざん指導してきたプロジェクト終了等の際の在外事務所の経理処理を自ら実践する機会を得たことが特に印象に残っている。また、余裕で挨拶回りしている他の専門家に比べて、最後の最後にお金の精算を控えて右往左往してろくに帰任の挨拶もできなかった調整員の慌ただしさ、ただただ頭が下がる思いであった。

医療機器は、日本なら5年で更新する。ネパールでは、5年10年遅れた中古機器を10年以上使用しようとする。日本の援助が打ち切られると、とたんに先方政府の当該分野への予算配分が縮小されるという傾向は、この国でも著しい。古い機械を維持管理する予算がなくて、これが壊れたらどうするのだろうか。「維持管理能力」というのは技術協力案件を採択する際の基準の一つだが、TUTHの専門家全員が最後まで心配しておられたのはやはりこの点であった。(浩司)

タケダクニヒサさんてどんな人? 朝の眠りも覚ますおとぼけラジオ講座

私達の朝はラジオジャパンで始まります。6:45~8:45のうち6:45~7:45は英語放送でその中で週に2回ほど日本語講座があります。日本語講座は初級と中級があり、中級講座のアシスタントが「タケダクニヒサ」さんです。毎回軽快な音楽とともに「皆さ~んこんにちは。タケダクニヒサです。」ととぼけた挨拶から始まり、日本語を教えていきます。そして、そのスキット(練習会話)の内容がなかなかユニークなのです。具体的には、美術展で女性をお茶に誘う老人とか、子供が産まれたといって一人はしゃぐ中年サラリーマンとか、およそNHKの語学講座の内容とは思えないようなものです。中でも私達のお気に入りには子供が産まれた時の一人しゃべりで、それを再現してみると、

男「と~うとう産まれたんですよ。と~うとう。子供って可愛いですね~。近所の人も可愛いお子さんですねって誉めてくれるんですよ~。と言うわけで今日は仕事が終わったらすぐ帰ります。いっひひひひ(笑い)」

以上の会話を、気持ちを込めて表現力たっぷりに話すのですが、およそ子供が産まれる年齢とは思えない声(おそらく50~60才)なので、何となく違和感があるし、ここまではしゃぐ人もいないだろうし、最後の「いっひひひひ」という笑いを聞いたときには笑い転げて眠気が吹っ飛びました。

またあるときは、美術展で女性をお茶に誘う老人の会話も興味深かったです。

男「どうですか?よかったら、一緒にお茶でも飲みながら、絵について話しませんか。」

女「結構です。私は絵を観にきたのです。お茶を飲みにきたのではありません。」

この会話を覚えさせることによって、より友好を深めようという意図があるのでしょうか?とにかく次はどんな会話を教えるのか楽しみです。また、こんなに愉快な講座を担当しているタケダ先生はきっとひょうきんな方に違いありません。是非一度お会いしてみたいものです。(美澄)

E-Mail 始めました!! アドレスは misumi@mos.com.np です。

超進国ネパールにも、インターネットのブームは押し寄せている。一部方面からの熱い要望に応じて、我が家も電子メールのアドレスを遂に持った。アドレス持っている人、文通しましょう。但し、当面は英文かローマ字でお願いしま~す。

編集後記

★最近、カトマンズでは、肝炎で日常業務に支障を来している大使館・JICA関係者が続出しています。かく言う私も帰国時の血液検査で懸念を呈され、実際時々脱力感があるのはそのせいではないかと戦々恐々としていました。ところがこちらで受けた血液検査の結果はシロ、全て基準値の範囲で収まっており、私達の心配は杞憂に終わりました(脱力感は単なる夏バテだったのかも)。間もなく結婚1周年ですが、ワインで乾杯もできないのは辛いですがね。しかし、今回の騒動を通じて、健康管理の大切さを再認識させられました。雨季は始まったばかり。元気で乗り切りたいものです。(浩司)

★我が家には、果物の木がたくさんあります。今は桃が盛りで、自分達だけでは食べきれないので日頃お世話になっている方に差し上げたり、ジャムやシロップ漬けを作ってみました。桃の他にもバナナ(2本ほど実っています)、レモン、ミカン、グァバとこれから実が熟するのが楽しみです。これも大家さんが果物を植えてくれているからなのですが、水も豊富に出るし、使用人もとても良い人だったし、なかなか良い家で、私はとても気に入っています。皆さんもお時間がありましたら是非我が家に遊びに来て下さいね。(美澄)